

## 第8回奈良ESD連続セミナー 概要報告

奈良教育大学 中澤 静男

- ◇開催日時 2019年11月7日(木) 19時～22時
- ◇会場 奈良教育大学次世代教員養成センター2号館多目的ホール
- ◇参加者 新宮(平城小)、中澤哲・小谷(平郡北小)、阿彌・圓山(飛鳥小)、高良(筒井小)、島(郡山西小)、樋口(平城西小) 今井(ソーシャル・サイエンスラボ)、三木(都跡小)、藤田(社会福祉協議会)
- 奥平・藤原・田中・畑下・櫛(学部生)、長谷川(教職大学院)
- 北村・中澤(奈良教育大学) 計19名

### ◇内容 ESD学習指導案の検討

(1)「地域を流れる秋篠川の役割とこれからの私たちの生き方を考える」平城小4年・総合 新宮先生  
吉野川の役割の学習・森と水の源流館との連携を下敷き(モデル)に、秋篠川の役割の学習に接続する。

秋篠川の恵みを多面的に探究する。聞き取り調査を行い、時間軸による人と川の関係の変化をつかむ。

- ・生き物同士の役割  
生物多様性 生き物の種類や数の変化
- ・「思いをつなぐ川」 遊び・景観・農業・漁業  
水の恵み・大阪湾の魚、おいしいお米・野菜
- ・水の役割 防災につなぎたい  
→ マイクロプラスチックの学習  
ビニール袋やペットボトルのゴミに気づかせる  
川の恩恵を守る行動化を提案しよう



○多様な視点があったのに、ゴミだけに集約するのはもったいないのでは←地域課題

○プラスチックごみ以外のごみについてはどうなるのか

ゴミ拾いで終わりではさみしい。多様な行動化があってほしい。

昔のプラスチックごみのない時代の生活と自分たちの生活の比較から、ライフスタイルの変革  
吉野川との比較を通して、川上村の人たちの行動化に学び、ライフスタイルの変革に

○模造紙の活用法

○川と子どもの距離を縮めるための調べ学習→地域課題→行動化

(2)「奈良公園のつながり」第4学年・総合 阿彌先生

- ・様々な問題を取り上げることで多面的な思考を導く
- ・奈良に関するアンケートからシカへの関心を高めていく
- ・インターネットや本で調べ、発表する。
- ・調べたことをカテゴライズする
- ・現地調査 奈良のシカに関わる人々のインタビューをする
- ・シカに関わる課題や思いを明らかにする



- ・なぜ、今も奈良公園のシカと人びとは共生できているのだろうか？
- 疑問を持たせたくてインタビューを行う（意図をもって）
- すでにやり終えてる学習が本時にある。
- グループごとにインタビューで聞き取ったことを前時にまとめさせ、本時はそれを報告し合い、思いにみられる共通点・課題を明らかにしては
- 10年後のことを考えさせる際に、宮島の人達の選択について考えることで空中戦を防ぐ。
- インパクトのある導入が必要（鹿せんべい飛ばし大会など）

### (3) 「奈良の筆」第3学年社会科 三木先生

- ・作っている人（松谷さん）の視点から「奈良筆」をとらえさせる
- ・つかう側の思い 自分たちはどう思っているか（否定的）
  - お坊さん（薬師寺）から話を聞く
  - 墨で書いたものは何百年も遺っていく：
  - 人の思いを遺していくことができる
- ・奈良筆を使うことと安い筆を使うことの違いを考える
  - 使う側：いい字が書ける、思いを遺すことができる
  - 作る側：
    - 世の中：環境的側面 いいものを長く使う文化のよさ
    - 奈良筆をつかうことの意義をSDGsから意味づけたい
- 安い方を選んだ子へのフォローがいるのでは
- 使ってみるといいかも、でも小3にわかるか
- いいものを長く使う文化のよさを理解させたい
  - 高いから大事につかう、安いとすぐにゴミになりやすい
- 安い筆に関する情報が少ない
- 安い筆には書道を広げる上ではよい役割を果たしているとも言える
  - 両方のメリット・デメリットに気づかせたい
  - 安い筆は数が増えることでゴミも増えてしまう



- ### (4) 飛鳥にも『たからもの』が？ 第5学年総合 阿彌先生
- ・地域にも宝物があることに気づかせることで、地域への愛着を育てたい。
  - ・散策・本物との出会い。気になったものでグループを作る。現地でのインタビュー
  - ・なぜ、遺してきたのかという人の思いにふれさせる
  - ・「飛鳥遺産」に認定しよう 認定基準を考える
  - ・本時：認定できるかどうか、認定する理由を考える
  - ・認定したものの共通点を見出したい
  - 認定基準は本当に必要なのか？
    - 世界遺産になっていなくてもいいものはある。
  - 自分たちの宝物をみんなに紹介しよう
    - それが他の人にはどのように思われるか
    - 色々な人が認定するかどうかを話し合いを続けることで、基準も明らかになっていくだろう

- どんなものを認定したいかをまず話し合う。
- これまでの町探検との違いがよくわからない  
個別具体的なものを「みんなの幸せ」の観点  
昔の人ー私たちー将来の人

(5) 「こん虫のかんさつ」 小学校3年生理科 島先生

- ・ 既有的知識・経験の活用、見方（多様性）・考え方（相互性）、  
愛着を育てる、を中心に
- ・ 校内にこん虫を探す どこにどんなこん虫がいるのかな 多いところ・少ないところ
- ・ 草の多いところ 草を食べるから 体の色と同じなので敵に見つかりにくいから
- ・ 「昆虫すごいぜ」の視聴
- ・ 教材研究：自然史博物館の見学・昆虫展
- ・ ものすごい図鑑
- ・ 森と水の源流館の古山さんとのテレビ電話（子どもには単語が難しかったかもしれない）
- ・ 昆虫カルタづくり
- ・ 発展：アカバネオンブバッタ（外来生物）とオンブバッタの判別  
生物多様性を高めるESD
- どのような子どもの姿を目指しているのか
- 外来種との付き合い方  
外来種には人間活動が関わっている 人のせいで来たんだ  
生きものを大切にする行動化とはどういうものか



(6) 「飛鳥スマイルキッズ」 第6学年総合 阿彌先生

- ・ 地域ボランティアが当たり前の存在になっている。一緒に活動することで、ボランティアの方への感謝の気持ちや、自分もみんなのために何かしたいという思いを育てる
- ・ 奈良町の町名調べ（いわれ、歴史） → 歴史のある町に気づかせる 魅力に気づかせる
- ・ 観光コース（観光客の案内）、環境コース（ゴミ拾い）、スマイルコース（絵本の読み聞かせ）
- ・ 本時 ボランティアの方の思いを聞き取る
- ・ 自分自身が「よさ」を知っていることが大事
- ゲストティーチャーの話は、活動前にして、振り返りを本時に持ってきて共有しては大変だったという思いを持てるだろうか（楽しかったで終わらないか）
- 第2次と第4次の違いを明確に
- ボランティアの方々が気づいているボランティアする価値に気づくことができれば、子どもの価値観も変化し、行動も変わるのではないか。
- ・ 実際にボランティアの方と出会わせて、思いを聞くところが今年のポイント
- ・ 活動した経験がゲストティーチャーの話に共感できるのではと考えた。